

今週（3月13日から3月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、2月の積み期間後半に当たる週前半は、積みの着地を意識した動きからレートが上下に変動する展開となった。3月の積み期間前半に当たる週後半は、一旦落ち着いた展開となった。当座預金残高は概ね320兆円台後半から330兆円台前半で推移した。

無担保コールO/N物は、積みの調整に目処を付けた先が増加したことで、週初2日間は調達需要が落ち着いていた。出合いレートは二極化し、地銀業態からは▲0.02～▲0.015%、信託・証券業態などからは▲0.08～▲0.06%近辺の調達希望となった。無担保コールO/N加重平均レートは先週対比で低下した。積み最終日となる15日には再び調整ニーズによる調達の動きが活発化し、ビッドアップする展開となったものの、前日まで弱めの地合いで推移していた影響から、オファーサイドから早めのギブンが見られ、無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.043%と小幅に上昇した。16日からは新しい積み期間に入り、各業態の調達意欲が一旦落ち着いたものの、出合いの水準は▲0.07%～▲0.01%が中心と底堅く、無担保コールO/N物加重平均レートは▲0.04%前後となった。無担保コールの市場残高は週を通して7兆円台で推移した。ターム物は、3月期末越えの関係でロングタームの引き合いは限られており、1W物程度のショートタームを中心に▲0.025～▲0.015%の出合いが見られた。固定金利方式の共通担保資金供給オペは、16日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額3,050億円（期落ち額1,465億円）の札割れとなった。

3月15日～3月16日に開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。景気判断については「緩やかな回復基調を続けている」との表現を維持した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.105～▲0.070%程度の水準で推移した。13日のS/N(3/15-3/16)、および14日のS/N(3/16-3/17)は▲0.09～▲0.08%程度での出合い。15日のS/N(3/17-3/21)は▲0.105～▲0.085%程度での出合い。ビッドが厚く、▲0.10%近辺まで買い進まれた。16日のS/N(3/21-3/22)は、国債の大量発行日にあたることからファンディングニーズが強く、▲0.085～▲0.08%程度までレートを切り上げた。翌日のT/Nでも調整の売り物が多く、▲0.07%まで出合うなど、更にレートを切り上げていた。17日のS/N(3/22-3/23)は、日銀の短国買入オペが5000億円でオファーされたものの、引続き投資家の資金調達意欲は強く、また業者も在庫が重いことから▲0.08～▲0.07%での出合いとなった。

SC個別銘柄では、5年126～131、10年338～346、20年155～160、30年48～54、40年9などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペが、2月末に発表された短国の日銀保有残高見通しを下回る水準でオファーされ、需給は緩み気味となった。その一方で、期末に向けた担保需要も一定程度見られ、小じっかりとした地合いが続いた。

新発の入札は、14日に1Y物、15日に3Mの入札が実施された。1Y物は、WI取引において、▲0.31～▲0.305%と強めの水準で出合っていたものの、平均落札利回▲0.2839%、按分落札利回▲0.2500%まで流れる等、短国買入オペの減少傾向を受け、慎重姿勢を反映した結果となった。セカンダリーでは、▲0.29～▲0.28%で出合いが見られた。3M物は、店頭ニーズからか、平均落札利回▲0.3217%、按分落札利回▲0.3039%と順調な入札結果となった。その後は小じっかりと推移した。出合いは3M▲0.34～▲0.325%、6M▲0.325～▲0.30%、1Y▲0.295～▲0.29%の水準でみられた。短国買入オペは17日に事前予想通りの5,000億円でオファーされた。平均利回較差+0.010%、按分利回較差+0.002%と、やや甘めではあるものの比較的落ち着いた結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、機械、鉄鋼、ゴム、ファイナンス等の複数業態で大型の案件が実施され、週間発行総額は6,600億円程度まで膨らんだものの、年度末要因で償還が8,600億円程度あり、償還超のマーケットとなった。発行レートについては、業者の玉確保ニーズが強く、期越物中心にレートの低下余地を探る展開が続いた。期内物、大口物の物については、0%近辺では多くの買いが入り、上昇圧力は生じることもなく、低い水準で推移していた。

17日には、CP等買入オペが、事前公表通りの5,000億円オファーされた。入札市場では、期越物中心に、オペを意識した積極的な買いが入り、低い水準での決着も見られており、前回の平均落札レート▲0.005%、按分落札レート▲0.009%からどの程度低下するか、注目が集まる中、入札結果は平均落札レート▲0.021%・按分落札レート▲0.032%となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/13 (月)	19,633.75	0.085	114.85	△ 0.048	△ 0.085	3,263,700
3/14 (火)	19,609.50	0.085	114.85	△ 0.053	△ 0.088	3,277,400
3/15 (水)	19,577.38	0.090	114.80	△ 0.046	△ 0.087	3,267,100
3/16 (木)	19,590.14	0.070	113.40	△ 0.043	△ 0.095	3,268,300
3/17 (金)	19,521.59	0.070	113.45	△ 0.039	△ 0.078	3,322,200

来週（3月21日から3月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/20 (月)	春分の日				
3/21 (火)					2月の英消費者物価指数
3/22 (水)	静岡県金融経済懇談会にて布野審議委員講演 金融政策決定会合議事要旨(1月30,31日分 8:50) 2月の貿易統計(財務省 8:50)	40Y 5,000億円 3/24発行			2月の米中古住宅販売
3/23 (木)		TB3M 44,000億円 3/27発行			2月の米新築一戸建て販売件数
3/24 (金)	1月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				2月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
3/20 (月)	春分の日								
3/21 (火)	100	55,500	55,600	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 1,500 ▲ 1,100 4,400	3,100	4,900	60,500	TB3M発行▲44000償還42500 TB1Y発行▲25000償還6500 5Y発行▲24000償還45800 10Y発行▲24000償還73600 20Y発行▲11000償還5700 30Y発行▲8000 変動15Y償還4800 エネルギー対策借入▲3000期日2500
3/22 (水)	0	4,000	4,000	短国買入		5,000	5,000	9,000	流動性供給▲2000
3/23 (木)	▲ 1,000	3,000	2,000	CP買入		5,000	5,000	7,000	
3/24 (金)	▲ 2,000	17,000	15,000				0	15,000	40Y発行▲5000
週間合計	▲ 2,900	79,500	76,600	—	1,800	13,100	14,900	91,500	

3/21は日銀予想、3/22以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、21日に国債の大量償還・発行がある。週間の資金需給は余剰であるものの、3月の積み期間からは基準比率の見直しと貸出増加支援オペによって、マクロ加算残高が大幅に増加しているため、調達が優勢になる展開が予想される。

短国市場は、23日に3M物の入札が予定されている。年度内最後の短国入札となり、年度末の担保需要などが出てくるかどうか注目される。最後の調整の動きが見られれば、しっかりとした結果になることも予想される。

CP市場は、28日にオファーされるCP等買入オペを見込み、期越物確保の動きが継続し、発行レートは引き続き低い水準で推移することが予想される。

主要なイベントとしては、22日の日銀金融政策決定会合の議事要旨の公表、23日のイエレン米連邦準備理事会（FRB）議長の講演などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。